

ふくしまから はじめよう。「ふくしまの今を語る人」講演リスト

令和元年5月31日
福島県消費生活課

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
1	アズマ カズオ 吾妻 一夫 	<p>◆おもてなしの心で風評払拭！“観光福島”誘客へ果樹園主奮闘中</p> <p>(震災と影響と風評の中、行政に頼らず自力で復興を目指す果樹園社長の奮闘話。)</p> <p>福島市出身。あづま果樹園社長。法人化した観光果樹園でサクランボ・桃・梨・ぶどう・りんご等、代表的な福島県産果樹を栽培。年間来園者は約10万人。</p>
2	イトウ トシヒコ 伊藤 俊彦 	<p>◆原子力災害に起因する健康被害からの回避</p> <p>(原子力災害下で学んだ「食」と「農業」や福島の農業の自立を目指した活動について。)</p> <p>須賀川市出身。(株)ジェイ・ラップ 社長。元JA職員。産直事業を通じ「買う責任」「作る責任」を実践。憂いを「作る勇氣」に変え放射性物質低減化対策。</p>
3	サイトウ チュウイチ 斎藤 忠一 	<p>◆揚津棚田オーナー交流事業の取り組み</p> <p>(地域の取り組みの経緯と現状や地域住民の意識変化について。「棚田オーナー」がもたらした様々な効果について現場の声を届ける。)</p> <p>喜多方市(旧高郷村)出身。米農家。揚津グリーン・ツーリズム推進協議会会長。豊かなむらづくり農林水産大臣賞。棚田オーナー制度、農家民泊等を通じ交流実践。</p>
4	サイトウ ノボル 齊藤 登 	<p>◆ふくしまの農業の再生～米農家の思い～</p> <p>(震災により福島県農業に何が起き、どう立ち向かってきたか。そして、今、目指すものは？福島第一原発から50キロ。米と野菜の専業農家が、現場から生の声を届ける。)</p> <p>二本松市出身。県を中途退職し農業へ。NPO法人がんばろう福島、農業者等の会代表。震災直後より、首都圏等で風評被害を乗り越える直販活動を展開。</p>
5	サトウ ミキコ 佐藤 美喜子 	<p>◆今を生きる～和牛繁殖家「実害」を考える時～</p> <p>(他市町からの避難者への炊き出しから一転、避難者となった。これまでの経過、そして「今」をどう生きるか、次世代のためにどうすべきかを語る。)</p> <p>飯館村出身。元和牛繁殖農家。8割は農家高齢者入居の仮設住宅管理人。大雪で近隣の国道が大渋滞した際、仮設住宅の自治会が支援米で炊きだしをし、運転手を救援した善行が「命のおにぎり」と呼ばれ、道徳の教科書にも掲載。</p>
6	スゲノ セイジユ 菅野 正寿 	<p>◆農の価値と市民の力による共生の時代 ～都市市民と共に持続可能な社会を目指して～</p> <p>(生物多様性、美しい景観の里山、日本型食生活(和食)、地域コミュニティ再生など有機農業の価値を改めて「ふくしま」から発信する。)</p> <p>二本松市(旧東和町)出身。専業農家。NPO法人福島県有機農業ネットワーク理事長。消費者との顔の見える関係を大切に有機農業による復興を実践。</p>
7	スズキ マサミ 鈴木 正美 	<p>◆福島県農業の現場から</p> <p>(原発事故前後農業を取り巻く環境や人口減少や高齢化、原発事故後の風評被害に地域がどう取り組むのか。「現場」の人々の前向きな活動と声を伝える。)</p> <p>矢祭町出身。農業法人でんぱた取締役。産学官連携の精密農業(土壌センサーポストの設置等)実践や農産物の県外直販、高齢者見守り活動等を展開。</p>

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
8	セキ 元弘 	<p>◆未来へつなぐ～いつまでも続いていける人と環境に優しい農と暮らしを目指して～</p> <p>(原子力災害により一気に加速した農業・農村の衰退という危機的状況を突破するため、「楽しく」かつ「真面目」に様々な取り組みをしている元役人夫婦の話。)</p> <p>東京都赤羽出身。夫婦共々元農林水産省役人。有機農業、酒類製造業、両者を活用した都市農村交流(アルコールツーリズム)に取り組む。</p>
9	タカノ キンスケ 高野 金助 	<p>◆福島の復興・再生を里山がっこうから</p> <p>(東京青梅市や佐渡への保養事業の展開や地域の「食」を取り戻す活動に力を注ぐ。「里山」ならではの農業体験を通して、福島の復興につなげようとする取り組みを紹介。)</p> <p>伊達市出身。NPO法人りょうぜん里山がっこう代表理事。廃校を体験研修施設へ改修・利用。減農薬による野菜・食品づくりと消費者交流・里山体験活動。</p>
10	タキタ クニオ 滝田 国男 	<p>◆農業体験者実践者が語るふくしまの「今」!</p> <p>(日本の「食」の大切さ素晴らしさを、農業体験からと実践。首都圏の多くの人々との出会いが生まれた。震災後に足が止まった体験者も、徐々に復活。その過程でのやりとりを語る。)</p> <p>白河市(旧表郷村)出身。合併前の表郷村最後の村長。米農家。震災後、新たに農産物の生産会社を設立。安心な食材を通して、農業の将来像づくりに励む。</p>
11	タダノ タダリ 但野 忠義 	<p>◆酪農、乳業での安全、安心を求めて</p> <p>(政府より生乳出荷停止を受けて、再出荷から不検出(ND)を守り続けてる酪農、乳業の取り組みを酪農家、そして元組合長の視点から伝える。)</p> <p>南相馬市出身。酪農家。元福島県畜産振興協会長、元県酪農業協同組合組合長。避難中の酪農家支援。乳牛580頭が飼育可能な「復興牧場」整備に着手。</p>
12	ニイスマ リョウヘイ 新妻 良平 	<p>◆生産者の想い～原発30キロ圏内で米づくり～</p> <p>(専業農家になった経緯や取り組み、原発事故後の変容を紹介しながら新たな出会いや農業を続ける「想い」を伝える。)</p> <p>広野町出身。専業農家、県指導農業士。(株)新妻農園代表。広野町農産物加工施設代表、同直販所組合長。避難町民にとっての買い物・交流の場を運営。</p>
13	ニヘイ タカヤ 二瓶 孝也 	<p>◆小さな乳業メーカーの生きる道～強い信念と明るさで～</p> <p>(独自の商品開発で首都圏等への販路拡大、軌道にのった矢先の原発事故発生であった。風評被害打開の道を模索中の「現状」と徹底した食品の「安全チェック」について。)</p> <p>会津坂下町出身。会津中央乳業(株)社長、福島県牛乳協会々長。地産地消等貢献でフード・アクション・ニッポン アワード2013受賞。県外主力ブランド品「会津のべこの乳」等。</p>
14	ハセガワジュンイチ 長谷川純一 	<p>◆人と種を繋ぐ会津伝統野菜</p> <p>(先人たちが守ってきた歴史ある会津伝統野菜を通して、人と種を繋ぎ、伝える活動を紹介する。ふくしまの食文化を重んじる専業農家の話。)</p> <p>会津若松市出身。専業農家。会津農書を語り継ぐ会の会長。伝統野菜を通じて復興を世界へ発信。会津小菊かぼちゃの種まき・苗移植をスペインで実施。</p>
15	ハッタ ノブユキ 八多 宣幸 	<p>◆水産業の復興に向けた取り組みについて</p> <p>(津波被害からの復旧。魚介類への放射能影響と試験操業の展開。今後の本格的な再開に向けた取り組みと展望を伝える。)</p> <p>福島市出身。福島県漁業協同組合連合会災害復興プロジェクトチームリーダー。産地市場での検査体制の整備と安全性の発信。</p>

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
16	フジタ コウシ 藤田 浩志 	<p>◆魅力たっぷり！福島農に生きる。</p> <p>(「ふくしま」で生きる農家として、震災後何を考え何を実行したか。数多くの方との出会い・対談から何を見出し、何を学んだかを伝える。)</p> <p>郡山市出身。農家8代目後継者。日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエプロ。生活者と農業者の架け橋を目指し、市内農家有志と共に多彩な活動を展開。</p>
17	ヤマギワ ヒロミ 山際 博美 	<p>◆「食」を通してふくしま復興へ！</p> <p>(福島県農産物の現状や活かし方、地域で6次化の商品開発を行うために必要な極意など、県内外で活躍中のシェフが説明する。)</p> <p>郡山市出身。(株)山際食彩工房代表。ヴィライナワシロ調理顧問。「あいづ食の陣」実行委員長。「地産地消の仕事人」。地域産業6次化総合アドバイザー。</p>
18	ユダ ヒロカズ 湯田 浩和 	<p>◆震災と同時にスタートした農産物加工</p> <p>(震災発生数か月前に取り組みが始まった農産物加工。当時の状況に加え「福島=苦しんでいる」というイメージを払拭したく、今後の展望を前向きな想いと共に伝える。)</p> <p>南会津町出身。「土っ子田島farm」を通じ花卉栽培、農産物加工(ジュース・ジャム)、味噌等を製造販売。脱サラ・Uターンの後、地元で6次化推進を牽引。</p>
19	ヨシナリ クニイチ 吉成 邦市 	<p>◆「天栄米」日本一の米作りを目指して～コメの放射能ゼロへの挑戦～</p> <p>(震災後に受注契約が全解除、いち早く対策に取り組んだ。国際コンクールで6年連続の「金賞」を受賞。回復の裏にある「日本一美味しい米作り」への諦めない努力と熱い想いととは。)</p> <p>天栄村出身。「放射能ゼロ」を目標に、農家を励ましコメ作りに取り組む同氏の姿を追ったドキュメンタリー「天に栄える村」が各地で上映。</p>
20	ワタナベ トミコ 渡邊 とみ子 	<p>◆ふくしま福幸のために！諦めない心で立ち上がる女性の力</p> <p>(飯舘村での活動を通して原発災害でも諦めない心で「かーちゃんのカプロジェクト」や農業に取り組む姿を紹介する。)</p> <p>福島市出身。「いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会」会長。元NPO法人かーちゃんの力・プロジェクトふくしま理事。イベントを通して元気発信。県産品発信団体を設立。</p>
21	ワタベ アキオ 渡部 明雄 	<p>◆震災以降の地域活性化を考える</p> <p>(35歳で独立、「アース建設」を設立しその視点は震災を経験して揺るぎないものとなっている。様々な物・事に挑戦してきた自身の生きざまを踏まえ考える地域活性化とは。)</p> <p>いわき市出身。農事組合法人いわき菌床椎茸組合代表理事。建設業から新規参入。「いわきゴールドしいたけ」のブランド化や6次化に積極的に取り組む。</p>
22	エガワ マサミチ 江川 正道 	<p>◆持続可能な農業のあり方について</p> <p>(一度荒れてしまった畑をいかにして再生し、いかにして人が集まる畑にするかについてを、「持続可能」というキーワードと共に伝える。)</p> <p>喜多方市出身。農業生産法人(株)エガワコントラクター代表取締役。県内若手農業者団体(一社)COOLAGRI理事。耕作放棄地の再生、その後の野菜生産まで一貫して担っている。</p>
23	オノ ハルオ 小野 春雄 	<p>◆福島海で試験操業に取り組む漁師の思い</p> <p>(原発事故後の不自由な漁業のあり方と風評被害の現状を紹介する。)</p> <p>新地町在住。相馬双葉漁業協同組合新地地区所属漁師(沿岸漁業)。元新地町船主会会長。</p>

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
24	かとう コウジ 加藤 晃司 	◆福島の農地を守る為に、発信していること (震災からの福島県の農業の現状。GAPなどの取り組みについて紹介する。) 福島市出身。(株)カトウファーム代表取締役。42haの田んぼで水稻栽培を行う。
25	さくらい ヨシハル 櫻井 義晴 	◆ふくしまに生きる (原発事故により変化していった仕事内容と課題について。米を作り、牛を育てる農家が現場の声を届ける。) 南相馬市出身。(株)櫻井アグリサービス取締役。和牛繁殖や米、大豆を生産。
26	たかく カズシ 高久 一志 	◆障がいをプラスに変える～感謝を形に変える (妻の視覚障がいを機に始めた椎茸栽培。その矢先の原発事故。風評被害を含めた障がいになり向かい、乗り越える原動力となった強い意志と目標、多くの出逢いについて伝える。) 会津坂下町出身。富士ソフト企画(株)西会津しいたけファームゼネラルマイスター。全国の椎茸の品評会で数々の優秀な成績を受賞。椎茸栽培を通して、命の大切さを伝えると共に、障がい者の雇用促進を目指す。
27	たかはし ケンイチ 高橋 賢一 	◆果樹栽培に取り組む生産者の思い (ふくしまで果樹栽培をする専業農家が、風評被害払拭に向けての取り組みを紹介する。) 福島市在住。たかはし果樹園園主。福島市観光農園協会会長。ふくしま土壤ネットワーク代表。桃・梨・りんごを栽培する専業農家。
28	ほつた エイチ 發田 榮一 	◆みんなで考える地域農業の実践 (南相馬土地改良区の参事職で経験した実績により、農業構造変革の中、これからの地域農業をどうあるべきかを勧めたい。) 南相馬市在住。南相馬土地改良区技術専門官。(株)荻の杜専務取締役。南相馬市職員として43年勤務し、主に農林水産業に23年従事。
29	みうら ヒロシ 三浦 広志 	◆原発事故からの浜通り地方の地域復興と農業の再生 (震災・原発事故後に取り組んできた農地の復旧や農業の再生、米の全袋検査を始めとした放射能測定事業、太陽光発電の拡大やそれを活用した避難地域の再生などを紹介する。) 新地町在住。農事組合法人浜通り農産物供給センター代表理事。特定非営利活動法人野馬土代表理事。南相馬市小高区井田川から避難、半農半エネで避難元の農業の再生に取り組んでいる。

【問い合わせ窓口】

◆株式会社クリフ

〒960-8036 福島市新町6番35号 コープマート新町2階

メール: info@c-r-f.jp FAX: 024-531-8121 TEL: 024-531-8120

◆事業実施者: 福島県消費生活課